

## 8 家庭 一第5学年の実践一

### 1 題材 身の回りを快適に

#### 2 題材について

(1) 本題材では、気持ちよく生活するために、住まいの整理・整頓が必要であることが分かり、身の周りの整理・整頓の仕方を理解し、適切にできるようにすることがねらいである。

子どもたちが現在使用している机の引き出しやシスボックスなどの整理・整頓を行い、より便利に、快適に整理・整頓のする工夫について実践を基に様々な工夫について話し合うことで、物を使う人や場所、その使用目的や頻度、大きさや形などによって整理・整頓の仕方を工夫する必要があることに気付くことができる。また、整理・整頓をすることによって、楽しく安全で快適に過ごせることに気付くこともできる題材である。

(2) 子どもたちは本題材が、住生活についての初めての学習になる。本題材では、身の回りに目を向け、持ち物の分類や衣服のたたみ方の工夫などについて学習していく。これは、6年生での「掃除の仕方の工夫」を考える学習、中学校での「C 衣生活・住生活と自立」における家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方の工夫を考える学習につながる。

(3) 本題材に関する子どもの実態は、次の通りである(調査人数36人)

- ① 生活していく中で整理・整頓は必要であると考えている子どもは29人、必要ないと考えている子は5人、どちらともいえないと考えている子どもは2人である。
- ② 整理・整頓は得意と感じている子は20人、苦手と感じている子は16人である。
- ③ 整理・整頓を家庭でしている子どもは27人いたが、ほとんどの子どもが「部屋が汚くなったらする」「親に言われたらする」と時々しか整理・整頓をしていない。

(4) 本題材の指導にあたっては、次の点に留意する。

- ① 第1次においては、教室の現在の様子について振り返ることで、現在の状況は多くの人が汚いと感じており快適とは感じていないことに気付かせる。また、教室は、多くの人が共通して使用している場所であり、物がたくさんあるため快適にするためには片付けが必要だということを実感させる。
- ② 第2次においては、「引き出しやシスボックスをどうやって綺麗にすればいいのだろう。」という課題を設定し、引き出しやシスボックスなどの整理・整頓の実践と検討を繰り返し行うことで、整理・整頓の手順とポイントを明らかにする。
- ③ 本時では、引き出しやシスボックスの整理・整頓の実践の中で、どのような方法で整理・整頓を行ったのか、また気を付けたことは何かなどをそれぞれの場所から出し合わせる。そして、その方法の良さについて全体で検討していくことで、整理・整頓の仕方を明らかにし、実生活でも生かせるようにする。

#### 3 題材の目標

- (1) 住まいの整理・整頓の仕方を理解し、身の回りを快適に整えることができる。
- (2) 整理・整頓の仕方について考え、工夫することができる。
- (3) 整理・整頓に関心を持ち、自分や家族にとって快適でよりよい住まい方を工夫しようとしている。

#### 4 指導計画(7時間取り扱い)

- (1) 身の回りを快適にしよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- (2) 整理・整頓の工夫をしよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間(本時1/3時間)
- (3) 実践報告会をしよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

## 5 本時の学習

### (1) 目標

実践した整理・整頓の工夫を話し合うことを通して、整理・整頓の仕方について理解することができる。

### (2) 展開

| 学習活動                                 | 時間 | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                           | 備考                           |
|--------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1 本時の課題をつかむ。                         | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に行った引き出しやシスボックスの整理・整頓の実践で、改善できた点や困っている点を出し合わせることで、本時で検討していく問題を確認する。</li> <li>○ 整理・整頓前後で変化に富んだ事例の写真を提示し、どこがどのように変わったのかを考えさせる。</li> </ul>                                | 実践前後の写真                      |
| 引き出しやシスボックスをどのように整理・整頓すると使いやすくなるだろう。 |    |                                                                                                                                                                                                                   |                              |
| 2 引き出しやシスボックスの整理・整頓の方法について出し合い、検討する。 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理・整頓をどのようにして行なったかが分かるようにモデルを準備しておく。自分の具体物を使って自分の実践を再現し、説明させることで、解決方法の良さに気付けるようにする。</li> <li>○ 発表者に、収納の向きや場所についての理由を問うことで、出し入れするときの便利さを具体的に理解させていく。</li> </ul>           | 引き出しのモデル<br>シスボックスのモデル<br>TV |
| 3 自分の整理・整頓の方法について再検討する。              | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際に整理・整頓した後に2日間使用してみた結果も踏まえ、自分が思っていたような成果が出ているか、いないかも検討事項に入れることを伝える。</li> <li>○ さらなる改善点を見つけ出し確認したい場合、時間内であれば具体物を用いて実践しても良いことを伝える。</li> </ul>                             |                              |
|                                      |    | <div>【評価】</div> <p>整理・整頓の仕方を理解することができる。<br/>(発言、ワークシート)</p>                                                                                                                                                       |                              |
| 4 本時の学習を振り返る。                        | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理・整頓ポイントと今までの自分の整理・整頓の方法について照らし合わせて、できていた所やまだ足りていなかった所、家庭で実践したい場所などの振り返りをワークシートに行わせる。</li> <li>○ 他の友達の意見を聞いて自分の考えが変わったことや、整理・整頓の仕方について新しく気付いたことについても振り返りを促す。</li> </ul> | ワークシート                       |

## 6 指導の実際

### (1) 本時の課題をつかむ。

第1時に出た自分たちの整理・整頓で解決していきたい問題を振り返り、第2時に行った引き出しやシスボックスの整理・整頓の実践前と後の写真を提示します。子どもたちが様子の変化に興味を示したところで、次のように問いかけます。

発問

どのように整理・整頓すると、写真のように使いやすくなるのでしょうか。



整理・整頓実践前のシスボックスの様子

整理・整頓実践後のシスボックスの様子

※ 実践前後の変化が大きいものを写真で提示することで、工夫点に気づきやすくします。

C 教科書とファイルを分けてシスボックスに入れるといいと思います。

C 大きさを揃えて入れるといいと思います。

C 上にもものを置かないようにして、教科書とかを入れやすくする。

C 斜めに入れるのではなく、真っ直ぐに入れる。

※ 子どもたちの発言は、板書に残していきます。板書は、活動前の自分の生活の捉え方と、活動後の捉え方との変化を比較できるように課題ごとにまとめていき、活動や話し合いの時の手がかりになるようにしておきます。

### (2) 引き出しやシスボックスの整理・整頓の方法について出し合い、検討する。

指示

自分の実践を振り返り、工夫して解決できた所やまだ解決できていない問題点を出し合いましょう。

C よく使うものと時々しか使わないものを分けて、引き出しの隙間にパズルのように入れるとよい。

C パズルのように入れていったら、見た目は綺麗になるけど、引き出しの中がぎっしり詰まるのは同じだから使いにくい不是吗。

C 引き出しから物を全部出したら要らないものもたくさん出てきて、処分したらスペースが生まれて使いやすくなりました。

C 入れる場所が決まっていなくて適当に置いてしまうから大きさに合わせた仕切りを作ると片付けしやすくなりました。

※ 整理・整頓の作業の過程を可視化して説明させることで、聞いている子どもに説明している子どもの考えや手順を理解させやすくします。



説明用に再現したモデル



モデルを使った作業の可視化

### (3) 自分の整理・整頓の方法について再検討する。

#### 指示

明らかになった整理・整頓の工夫を踏まえて、自分の整理・整頓の仕方について再検討してみよう。

※ 友達の実践を聞き、自分の整理・整頓の工夫との共通点や相違点について各自で振り返ります。そうすることで、自分に足りなかったポイントに気付いたり、自分の考えにより自信をもったりすることができます。

※ 改善点のみしか書いていない場合、なぜそのような改善が必要と考えたのか理由や根拠を問い直すこと問題の原因との関係を明らかにすることができ、思考をより深めることができます。

※ 検討してさらなる改善点が見つかった場合、具体物を用いて実践することで効果を試すことができるようにすると、実感が伴った理解につなげることができます。

C よく使うものとあまり使わないもので分けていたけど、物の量が変わらないからたまにしか使わないものは必要な時に持ってくるようにした方がいいことが分かった。

C 使いやすくするためには、スペースが必要なことが分かった。

C 大きさごとにまとめていく整頓はできていたけれども、あまり使わないものや必要ないものを処分する整理ができていなかった。

C 置く場所を決めると片付けがしやすいことには気付いていなかったな。



整理・整頓実践前の引き出し



実践後の引き出し



話し合いの後の引き出し

引き出しの整理・整頓の変化の様子

※ 実物を操作していくため、変化を比較することができません。そこで、自分が考えた方法で引き出しの中がどのように変化していったかを記録として残していきます。また、友達と見せ合い検討することで、より良い改善策に繋がったり、自分の成長を実感したりすることができます。

### (4) 本時で学習を振り返る。

#### 指示

今日の学びや、新たな気付きなど振り返りましょう。

※ 振り返りでは、自分で見いだした整理・整頓の方法と全体で出てきた方法を比較して足りなかった考えや、他の友達の意見を聞いての自分の気付きなどを振り返りの視点として示しましょう。

C 使いやすくするためには、きれいに並べるだけでなく、量を減らして片付けやすくすることも必要だとわかりました。

C 使う頻度を考えて片付ける場所を決めていくといいことに気づきました。

C 学校と同じように必要なものと要らないものを分けていくと、家の引き出しも使いやすくなりそう。

C 使いやすくすることで、自分だけではなくみんなが使いやすくなることに気付いた。

(大廣 絃子)